

2020年度 安全管理プロジェクト活動報告

徳永誠 加藤美佐 小山哲夫 佐藤亜矢子 杉山孝雄 設楽浩明 田中協子
中島綾子 平原実留 降矢久美子 川原藤樹* 小林邦宏** 川田良暁***
物質・生命科学系 *電気電子情報系 **機械建設系

1. はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に2020年度の主な活動について報告する。

2. 今年度の活動報告

2-1 薬品管理システムの管理・運用支援

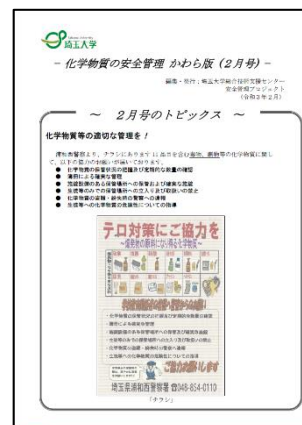
総合技術支援センターでは、埼玉大学で購入したすべての毒劇物薬品を薬品管理システム(IASO)へ一括登録しており、本プロジェクトはこの業務を支援している。IASOに登録されている基本データ(薬品データベースやユーザーに関する基本データなど)の管理や、薬品の使用や廃棄の際のIASO利用法に関する問い合わせにも対応している。また、年度初めの薬品管理システム説明会では毎年本プロジェクトのメンバーが講師を務めているが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン形式で開催され、その資料作成にあたった。その他、PRTR法・さいたま市条例に係る届出のためのデータ提供、さいたま市消防署による警防調査に伴う薬品(消防法危険物)リストの提供も行った。

2-2 安全管理についての情報提供・収集

本プロジェクトでは、教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)より配信されている「ACSES ニュースレター」の記事から、学内に周知すべき事項を編集した「化学物質の安全管理かわら版」を学内向けに発行している。本紙は全学の安全衛生委員会の資料としても活用されている。2020年度はトピックスとして、「消毒用アルコールの引火の危険・次亜塩素酸ナトリウムの使用方法に注意」「浦和西署からの、爆発物の原料になり得る化学物質等の適切な管理のお願い」等を取り上げた。

ヒヤリハットについては、学内数カ所に投書箱を設置し、継続して事例収集を行っている。

また、「第13回関東甲信越地区大学安全衛生研究会」にオンライン参加し、新型コロナウイルスへの対応など、他機関の安全管理関連情報の収集にあたった。



化学物質の安全管理かわら版

2-3 その他の活動

応用化学科からの依頼を受け、学生実験の安全教育のオンライン授業用資料を作成した。

3. 今後の展開

大学は、常に高度な教育と研究成果を期待されている。その一方で、経験の浅い学生たちが多い作業現場の安全にも十分な注意を払わなければならない。私たちは、教員・学生を技術面で支援する技術職員として、その経験や知識を生かし、また、学内のヒヤリハット情報や他機関から得た安全管理情報などを積極的に学内にフィードバックすることで、大学の作業現場に即した安全管理活動を展開し、埼玉大学の研究教育活動に貢献していきたいと考えている。